

# 第7回茨城活性化サロン テーマ「オープンイノベーションの推進について」

◇ 平成31年3月19日開催

◇ ゲストスピーカー 門田 靖 関東経済産業局 地域経済部 産業技術革新課長  
「オープンイノベーションの潮流と関東経済産業局の取り組み」講演概要

## 1. オープンイノベーションの潮流

- 日本企業を取り巻く競争環境が厳しさを増す中、自社のリソースのみで、新たな顧客の価値を生み出すイノベーションを起こすことはもはや不可能であり、世界中に広がるリソースを活用するオープンイノベーションは、企業にとって必須の戦略である。
- 日本においては、多くの企業でオープンイノベーションの取り組みが進みつつある。

## 2. オープンイノベーション促進の意義・課題

- 製品ライフサイクルの短期化や、これまでのビジネスモデルはもはや通用しない時代が来ていること、企業が自前でイノベーションを興すことは時間的に困難かつ付加価値の創出も限界となってきたことから、高付加価値創出のスピードを確保する手段としてオープンイノベーションが重要となっている。
- 大手企業の課題としては、求める技術を有する企業を自社ルートでは探せない、全国大でのマッチングの場がない、効率的に商談がしたい、複数工程を一括して（ユニットとして）担える企業ないし企業グループを紹介してほしい、大手企業の立場もよく理解している人に間に入ってほしい等がある。
- 一方、中小企業の課題としては、大手企業へのアクセスルート（ネットワーク）を持っていない、自社が有する技術が既存事業分野以外のどの分野に役立つかわからない、自社の独自技術やノウハウが盗まれてしまうのではないかと不安がある、知財の権利関係の知識が乏しい、開発資金・開発投資の負担が大きい等がある。

## 3. 関東経済産業局のオープンイノベーション・プラットフォーム

- 関東経済産業局が大手企業や中小企業、ベンチャー企業のハブとなるようなオープンイノベーション・プラットフォームを立ち上げ、中小企業に関する情報について、地域の産業支援機関や大学、金融機関から紹介を受け、大手企業に紹介する取り組みを実施する等、イノベーションエコシステムの形成を目指している。また、地域でのオープンイノベーション推進のサポートとして、地域支援機関・金融機関・大学・専門家（弁護士・弁理士）の参画拡大を図っている。

## 4. オープンイノベーション推進に係る関東経済産業局の取り組み

- オープンイノベーション促進に係るネットワーク形成・強化の取り組みとして、オープンイノベーション推進者が組織の属性や規模を超えて交流を深めることを目的に、交流会を実施（平成30年度は2回）。
- 多様なマッチング機会創出の場として、以下の取り組みを実施。
  - ① 対話重視型マッチング：大手企業が有する社会性の高い技術課題に対し、技術と意欲を有する中小企業を募るマッチング
  - ② オープンイノベーション・チャレンジピッチ2018：大手企業等がニーズを発表し、大学や産業支援機関、金融機関、行政機関等との連携を創出
  - ③ シーズプッシュ型マッチング：AI、IoT等の能力を持つベンチャー企業と、技術力を持つ中堅・中小企業とのマッチング
  - ④ ビジョン共有マッチング：自動走行社会をテーマとした、多様な主体による対話・議論を通じ、ビジネスのヒントやパートナーを獲得
- 連携を円滑化するために、契約締結や知財交渉における弁護士や弁理士のサポートを実施。